様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：経済と社会
部会長名：芦谷政浩
作成者名：芦谷政浩

概要（2000 字）

１．組織と運営

「経済と社会」を運営する部会の構成員は、平成 25 年 10 月現在で 33 名となっている。その所属部局別の内訳は、以下のとおりである。

経済学研究科 19 名（教授 12 名、准教授 6 名、講師 1 名）
経営学研究科 2 名（准教授 1 名、講師 1 名）
農学研究科 3 名（教授 2 名、准教授 1 名）
海事科学研究科 1 名（准教授 1 名）
国際協力研究科 7 名（教授 6 名、准教授 1 名）
経済経営研究所 1 名（教授 1 名）

「経済と社会」部会は、前期 11 コマ、後期 7 コマ、年間合計 18 コマの講義を提供している。各部局の分担は、経済 7 コマ、経営 2 コマ、農学 3 コマ、海事 2 コマ、国際協力 3 コマ、経済経営研究所 1 コマである。

部会長・幹事の選出はローテーション制であり、2004 年 10 月の申し合わせにより

経済→国際協力→経済→農学→経済→海事科学（→経済に戻る）

の順に各部局から選出している。今年度の部会長は経済学部、幹事は農学部であった。

２．カリキュラム

「経済と社会」部会が担当する科目は、大きく分けて 4 種類ある。「経済入門」が 3 コマ、「現代の経済」が 10 コマ、「経済社会の発展」が 3 コマ、「企業と経営」が 2 コマである。どの科目も「経済学・経営学を専攻しない学生」を対象とし、普段見過ごされがちな「経済のしくみ」の基本概念を解説する。各科目の学習目標を説明すると、「経済入門」は、経済学を専門としない学生が経済学的な考え方の基礎を身につけることを目標としている。「現代の経済」は、経済学の基本概念を用いて現在の日本や国際社会が直面する諸問題を考察する能力を身につけることを目標としている。「経済社会の発展」は、日本経済あるいは世界経済の歴史的発展過程を理解することを通じて、歴史における変化の流れを把握し、それが現代に及ぼした影響を考察する能力を身につけることを目標としている。「企業と経営」は、社会人として必要になる、企業あるいは経営に関する基礎的な知識を習得することを目標としている。

個々の授業では、各科目の学習に必要な一般的知識の習得や、諸概念の理解を目指すとともに、各担当者の専門分野に基づいた個別トピックや、具体的な経済社会問題・時事問題についての解説も織り交ぜることで、学生の興味を引き付ける工夫がなされている。さらに、補足資料を配布したり、映像教材を利用したり、宿題やミニテストを課したりすることで、初学者でもトピックの理解が進むような授業形態の工夫がなされている。

３．活動の現状、課題、展望

「経済と社会」部会では、昨年度に外部評価を行った。この外部評価では、3 人の学外有識者（大学教員）に評価を依頼した。評価委員には事前に「過去のシラバス」「過去の学生の授業評価アンケート」「過去の自己点検評価報告書」などを基礎資料として配布し、外部評価会議では 2 日間にわたって、部会の活動内容の口頭説明とそれに関す

る質疑応答を行った。外部評価委員からは、その席上で数多くの有益な指摘・助言を受けた。とりわけ有益だった指摘のいくつかをこの場で紹介すると、
・「学生に聞かせるための講義」という基本を忘れず、学生の評価や要望をフィードバックする仕組みを検討すべき
・学生のニーズに合わせた授業の種類を提供すべき
・講義の難易度が高くなろうとも、大学らしい、各教員の専門性を生かした講義を行うべき
などである。これらの指摘は、本部会の課題を自己認識するうえで、大変参考になった。
　本年度は、ファカルティー・ディベロップメント（FD）の一環として、「現代の経済」（金子治平教授担当）のピアレビュー（授業参観）を行った。さらに、年度末に全部局の関係者が集まって開催された「ピアレビュー結果の検討会」にも参加して、有意義な議論を行った。金子教授の講義は大変好評であり、「新聞の記事を単にコピーするのではなく、見やすく加工してから配布することで、学生にも講義内容と現実経済との関連が分かりやすくなっている」「穴埋め方式の講義ノートを配布することで、学生が講義に集中していた」「前回の講義内容の復習テストをするのは、面白い工夫である」などの感想が寄せられた。
　今後は、昨年度の外部評価や今年度のピアレビューなどで得られた教訓や示唆を部会内で共有し、各々の講義で生かすために、いっそうの努力を重ねていくべきであろう。

様式２（続き）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）
配慮している。学生の選択肢が幅広くなるよう、経済・経営に関する基礎・歴史・現実分析などを扱う４種類の科目を配置し、計 18 授業を開講している。講義では、学生に「現実社会の経済的問題に目を向けることの大切さ、面白さ」を伝えるようにしている。提供科目を決めるにあたっては、授業科目の構成が学生の選択の幅を保証するものとなるように、教員側の専門分野について十分な配慮がなされている。

根拠資料
シラバス、授業中の配布・映写資料、教科書

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が

採用されているか。

（観点に係る状況）

採用されている。「経済と社会」の講義内容に照らして、多くの科目では「教員の講義」が中心となっているが、学期中に経済実験を 3 回行った科目もある。また、パワーポイント・DVD 等の映写、資料の配布を通じて、より質の高い媒体を通じて学生に知識を伝えるように心がけている。さらに、必要に応じてティーチング・アシスタントを雇用している。

根拠資料
シラバス、授業中の配布・映写資料

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

配慮されている。シラバス・授業計画を 3 月末までに作成・公開し、学生が授業の内容・進捗についての見通しをつけられるようにしている。また、授業の内容を反映した試験・課題・小テスト・レポート等を課し、内容の修得に応じて成績が決まるよう配慮している。さらに、学生に授業成績評価について予め方法を明示し、試験を厳正に実施している。

根拠資料
シラバス、配布・映写資料、試験問題、課題

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）

作成・活用されている。各教員は、3 月末までに作成・公開したシラバスに沿って授業を進めるよう努めている。

根拠資料
シラバス、配布資料

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

（観点に係る状況）

配慮している。各教員が授業において学生の予備知識・基礎学力を確認し、学生からの質問を受け付け、配布資料等で知識の不足を補いながら講義を進めるようにしている。

根拠資料
シラバス、授業での配布資料

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

3 月末までに作成・公開したシラバス、および授業中の説明において、成績評価の基準・方法を明示している。さらに、この基準・方法に従って、厳正に成績判定を行っている。

根拠資料 シラバス、成績評価の分布表、答案、提出課題

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

講じられている。成績評価については、学生からの異議申し立てを認めている。加えて、授業評価アンケートを通じて学生にコメントをさせるとともに、教員からそれに対応した回答を提示することを強く奨励している。

根拠資料 授業評価アンケート（学生からのコメント）、コメントへの回答

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

（観点に係る状況）

上がっている。学生の評価については、総合的には「有益であった」という答えがどの分野においても半数以上に達していた。理解度については必ずしも高くない授業があるが、担当教員の専門性に基づく授業を行ったことが要因と考えられ、「大学における研究とは何かを示し得た」という意味で有意義だったと考える。

根拠資料 授業評価アンケート

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。
（観点に係る状況）
大半の科目は講義形式であるが、学生が予習・復習を行うための環境は十分に整っていると考えられる。

根拠資料
シラバス、図書館所蔵図書データ

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
実施されている。大学教育全体における教養原論の位置付けについての説明は、各学部に依頼して行っている。各授業の第 1 回目には、授業の概要についてオリエンテーションを行い、学生の選択のための参考情報を提供している。

根拠資料
シラバス、授業での配布資料

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。
（観点に係る状況）
行われている。3 月末までに作成・公開したシラバスにおいて、講義担当者のオフィス・アワーと連絡先を学生に周知している。また、学生からの授業中の質問を受け付け、担当者によっては、授業後に質問時間を確保し、メールによる質問も受け付けている。

根拠資料
シラバス